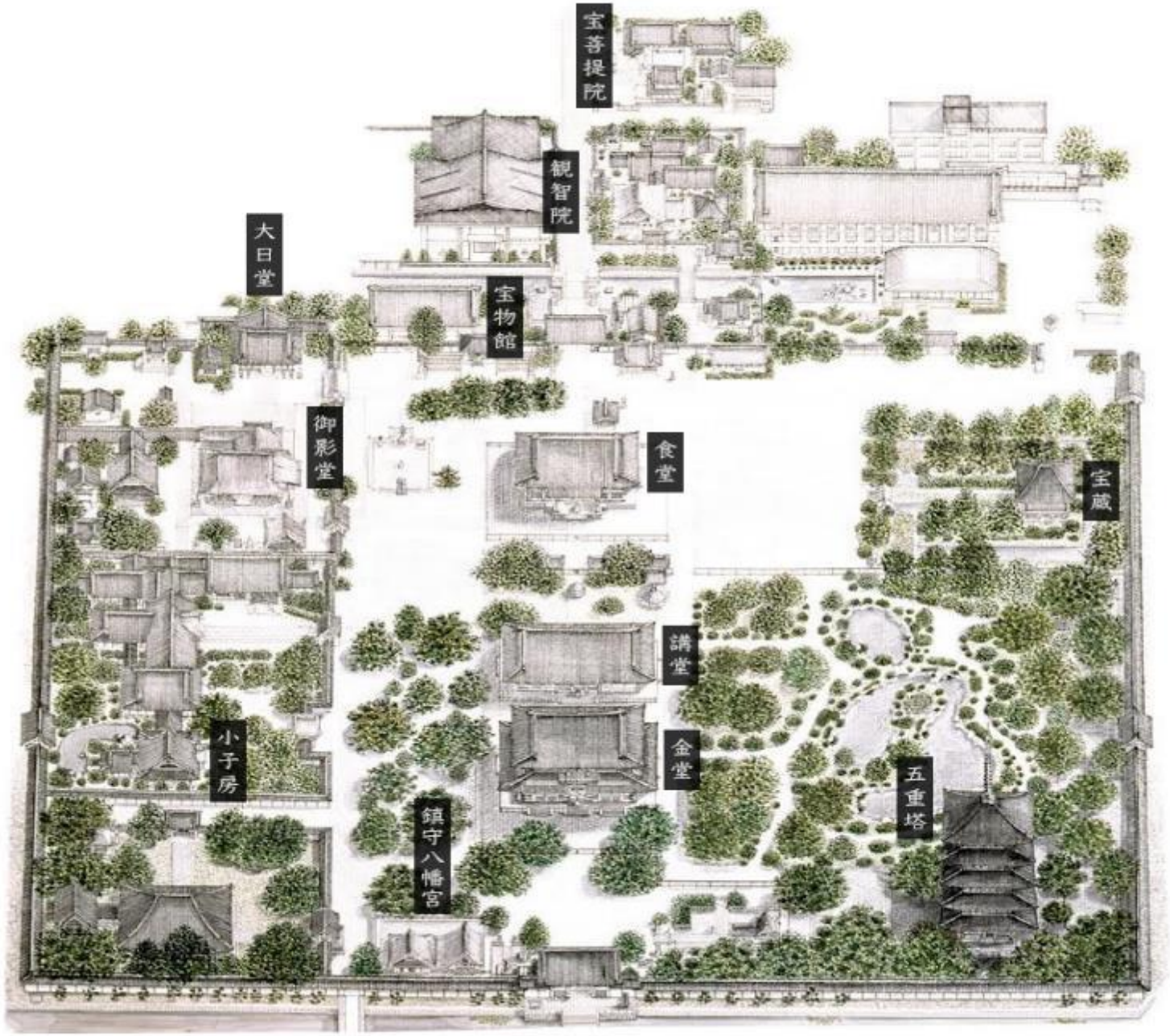
洛南高
観智院
北大門
太元堂
東寺洛南会館
大日堂
東寺宝物館
喫茶やまぶき
弁天堂
鐘楼
東寺真言宗宗務庁
西門
手水場
慶賀門
大宮東寺道
経蔵
大師堂(御影堂)
食堂
宝蔵
三面大黒天
九条町
毘沙門堂
夜叉神堂
東寺流大師講総本部(事)
東寺本坊
講堂
東大門
(不開門)
連花門
小子房
勅使門
金堂
東寺五重塔
灌頂院
鎮守八幡宮
八嶋殿
南大門
九条大宮
京阪国道口


宝菩提院
観智院
大日堂
宝物館
御影堂
食堂
宝蔵
講堂
小子房
金堂
鎮守八幡宮
五重塔

東寺は平安遷都の時に国立の寺院、官寺として建立されました。その後、嵯峨天皇より空海（弘法大師）に託され、日本で初めての密教寺院になりました。今日では、真言宗の根本道場であり、東寺真言宗の総本山でもあります。ちなみに、最も重要で中心となる宗派を総括する寺を「根本道場」「総本山」「大本山」と宗派により呼び方が違うようです。
寺院の建物（伽藍：がらん)は、文明18年（1486年）に土一揆の拠点となり伽藍のほとんどを焼失してしまいました。その後、織田信長や豊臣秀吉・秀頼の援助を受けて復興し、江戸幕府にも保護されました。そのあとも何度かの火災があり、創建当時の建物は残っていませんが、伽藍の配置や、各建物の規模は平安時代のままです。

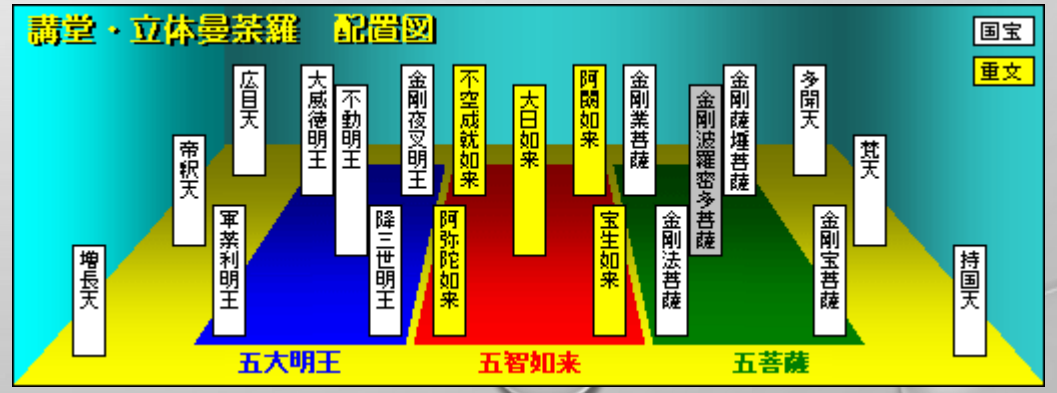
ご存知の通り、東寺は、平成6年1994年に世界遺産に登録されました。

「御影堂」は、弘法大師空海が、住居にしたところです。今も一の膳、二の膳、お茶をお供えしているとのことです。【御影堂】は、境内西北部の西院（さいいん）に建っている住宅風の仏堂です。
現在は生身供（しょうじんく)など法要が行われます。**空海が身近に置いて礼拝していた念持仏である不動明王が祀られている**とされ、現在でも護摩法要が行われています。また御影堂には木造弘法大師坐像が安置されており、作者は運慶の第4子である仏師康勝（こうしょう）と伝えられています。
御影堂で毎朝6:00から行われる生身供は、入滅した弘法大師空海にお膳を届ける儀式です。真言宗では、いまも弘法大師が瞑想したまま仏様になられているという考え方であるため、一の膳、二の膳、お茶といった食事をお供えします。参拝は無料で、希望する方は5:50までに御影堂の唐門、または西門前に集合します。法要の最後には、弘法大師が持ち帰った仏舎利のお授けを受けることができます。

豊臣秀吉が寄進した**「金堂」**、僧が修行を見**出す「食堂」**
国宝に指定されている金堂。
創建は延暦十五年(794)。文明十八年(1486)土一揆のため焼失、また天正十三年(1585)の地震で倒壊。豊臣秀頼が慶長十一年(1616)に再建(慶長の造営)。入母屋造本瓦葺の壮大な仏堂で、東山方広寺の大仏殿を写して造ったもの。この金堂の屋根は、今はない大仏殿と同様、正面の屋根が切れているのが珍しい。『都名所図会』に「本尊は薬師仏、脇士は日天・月天なり。焼失の後豊臣秀頼公の再建なり。洛東大仏殿の模形もぎようなり」と書かれています。
講堂を挟んで建っているのが食堂（じきどう）。
こちらは僧が修行を見出すところで観音堂とも呼ばれています。
四国八十八ヶ所巡礼や洛陽三十三所観音霊場などの納経所となっています。

立体曼荼羅の世界、「講堂」
講堂は東寺の中心となる建物で、当初の建物は839年（承和6年）に建設されました。当時の建物は周囲を回廊に囲まれ、金堂とつながっていたといいます。1486年（文明18年）に焼失されてしまいましたが、1491年（延徳3年）に再興され現在まで残されています。本瓦葺の入母屋造りで、国の重要文化財に指定されています。
曼荼羅とは密教の経典に基づいて、本尊を中心に関連する諸尊が定められた配置で描かれたものです。密教の教えをわかりやすく絵で表現したものです。仏や神が体系的に配置されており、悟りの境地を表しているといいます。**空海はそれをよりリアルに体感できるように、仏像を用いて曼荼羅を3Dという形で再現**しました。密教の本尊である大日如来を中心として五智如来、右側に五大菩薩、左側に五大明王、須弥壇に四天王、そして梵天、帝釈天が守るように配置されています。計21体にもなる仏像の圧倒的な迫力には、畏敬の念を感じずにはいられません。
この講堂は東寺の中心に位置し、さらに大日如来は講堂の中心にあるため宇宙の中心とされているそうです。
他では見ることができない見事な立体曼荼羅、密教の世界を肌で感じることができますよ。
金堂、講堂、食堂は仏法僧を表しているそうです。

不動明王
不動明王は大日如来の化身とされ、五大明王の中心となる存在です。唐で密教を学んだ空海が初めて日本にもたらしたとされ、東寺の不動明王像は日本最古 のものです。憤怒の形相を表す不動明王ですが、悪を封じて正しい道に導き人々を救済する、慈悲深い明王であるとされています。平安時代の作で、不動明王像を含む木造五大明王像は すべて国宝 に指定されています。



京都のトレードマーク的な存在として親しまれている東寺の五重塔は、高さ55mと 木造の建築物としては日本一の大きさ を誇ります。東寺では講堂の次に重要な建物で、空海が桓武天皇に直々に建設補助の依頼をしたという文献が残されています。落雷などの火災で4度焼失されましたが、その度に復興を繰り返してきました。現在の塔は江戸時代の1644年（寛永21年）に、徳川家光によって再建されたもので、 国宝 に指定されています。
中には空海が唐から持ち帰った仏舎利が収められており、初層内部には極彩色の密教空間が。普段は一般公開されていませんが、特別公開時にはその中を拝むことができます。

南大門
南大門は九条通に面した東寺の門で、1895年（明治28年）に平安遷都1100年記念として、三十三間堂から移築されました。元は東寺で建てられたものがありましたが、焼失してしまったため1601年（慶長6年）に作られたこの門が移設されたといいます。桃山時代の特徴を周到した建築様式で、重要文化財に指定されています。